

令和4年度 多文化 Opinion Exchange 実施報告

1 日 時

令和5年1月10日（火）14時30分～17時00分

2 場 所

オンライン（Zoom Webinar）

3 テーマ

災害時の外国人支援 ～共助の担い手としての外国人住民～

4 ファシリテーター

明治学院大学 教養教育センター 准教授 長谷部 美佳 氏

5 発表者・パネリスト

総社市 人権まちづくり課 国際交流推進係 譚 俊偉 氏

東北大学 災害科学国際研究所 助教 ゲルスタ ユリア 氏

株式会社朝日工業 代表取締役 田簀 真司 氏 ハー タン チュック 氏

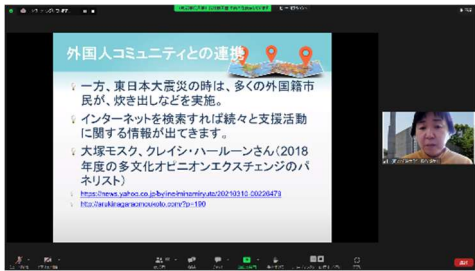
※株式会社朝日工業の2名は都合により急遽ご登壇が叶わなくなりました。

6 参加者

自治体・国際交流協会の職員等 168名

※出席を確認したアカウントの数のため、同一アカウントで複数名が視聴した場合など、実際の参加者数と異なる可能性があります。

7 実施内容の詳細

時 間	内 容
14:30-14:35	開会・挨拶
14:35-14:55	基調講演（長谷部 美佳 氏）  長谷部先生から、ウェビナーのテーマと一致し「災害時の外国人支援～」

	共助の担い手としての外国人住民～」と題してご講演いただきました。行政は防災に力を入れているが制限があるため、外国人コミュニティとの連携が重要と主張しました。外国の方は母国語で情報発信できるという理由をはじめとし、外国人コミュニティとの連携が強ければ外国人被災者数が減るのではないかと、貴重な話をいただきました。
14:55-15:20	活動紹介（譚 俊偉 氏）  総社市の取り組みについてご紹介いただきました。29 都市調査によるとそこに住んでいる 83.1%の外国人住民は「今後、大きな災害があったらボランティアをしたい」と答えましたので、日本人だけではなく外国人をより防災に関わらせた方が良いのではないかと。外国人防災リーダーを育む必要性について語り、外国人防災リーダーの養成研修についてご紹介いただきました。支援される側ではなく支援する側になるとおっしゃっていました。
15:20-15:35	活動紹介（ゲルスタ ユリア 氏）  プロジェクト「東北からの声」への参加について、東北大学災害科学国際研究所での仕事についてご紹介いただきました。「東北からの声」は、被災者をインタビューし、生の声をより多くの人へ届き、防災の重要性を主張するプロジェクトでした。また、仕事で災害が多い国の方々と連携し、イベントや意見交換をし、学生向けの防災ワークショップ、伝承館の見学ツアー等を行ったとおっしゃっていました。
15:35-15:45	活動紹介（株式会社朝日工業） 尼崎市消防団での取り組みについてご紹介いただきました。 急遽ご登壇が叶わなかったため、事務局が資料を代読しました。 ベトナム出身の技能実習生チュック氏が尼崎市消防団に入団し、一般参

	加者にも他の技能実習生にも、AED の使用方法などを教えています。尼崎市消防団唯一の外国の方です。
15:45-15:55	休憩
15:55-17:00	パネルディスカッション  長谷部氏のファシリテーションのもと、参加者からいただいた質問に回答しながらパネルディスカッションを行いました。パネリストのお2人には、それぞれの職場やコミュニティで活動されてきた災害時・防災における「担い手」の外国人としての観点から、様々なご意見をいただきました。譚氏から鋭いご意見をいただき、参加者からの「技能実習生は3年しか日本にいないので、役に立つ防災知識を得ることが難しい」といった質問に対しては、『3年しか』ではなく『3年もある』と考えてみてはどうですか」と明快に回答されました。
17:00	事務連絡・閉会